

徳山ダムに係る導水路検討会（第2回幹事会）

日時：平成18年8月23日（月）14：30～

場所：独立行政法人水資源機構中部支社4階会議室

議事次第

1. 開会
2. 挨拶
3. 議事
 - 1) 上下流案の比較について
 - 2) 地元説明状況について
4. 閉会

配付資料

- | | |
|----------------|--------|
| 1) 上下流案の比較について | ・・・資料1 |
| 2) 地元説明状況について | ・・・資料2 |
| 3) その他 | ・・・資料3 |
| ・連絡調整会議議事メモ | |
| ・第6回検討会議事要旨（案） | |

「徳山ダムに係る導水路検討会（第2回幹事会）」

出席者名簿

日時：平成18年8月23日（水） 14:30～17:30

場所：独立行政法人水資源機構中部支社4階会議室

幹事

機 関 名	部 局 名	役 職	出 席 者	
			役 職	氏 名
中部地方整備局	河川部	河川調査官	河川調査官	浅野 和広
岐阜県	県土整備部	河川課長	河川課長	清水 晃
愛知県	地域振興部	土地水資源課長	土地水資源課長	相徳 知幸
	建設部	河川課長	—	—
	企業庁	水道計画課長	水道計画課主幹	杉浦 誠治
三重県	政策部	土地・資源活用室長	水資源特命監	松枝 信彦
	県土整備部	河川室長	河川室長	花谷 郁生
名古屋市	上下水道局技術本部計画部	水資源主幹	水資源主幹	園部 照雄

資料1

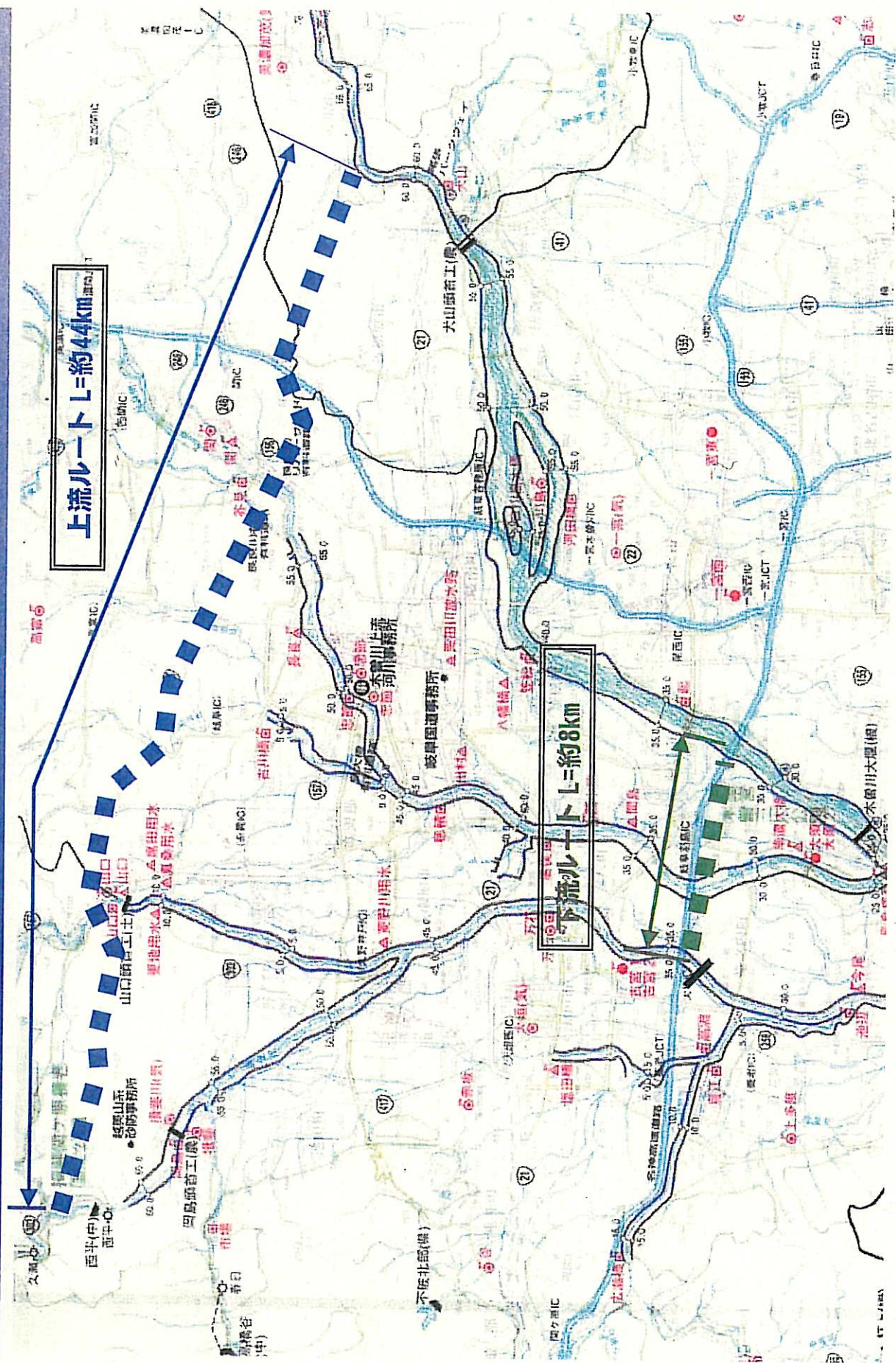
上下流案の比較について

国土交通省中部地方整備局河川部

導水ルート比較

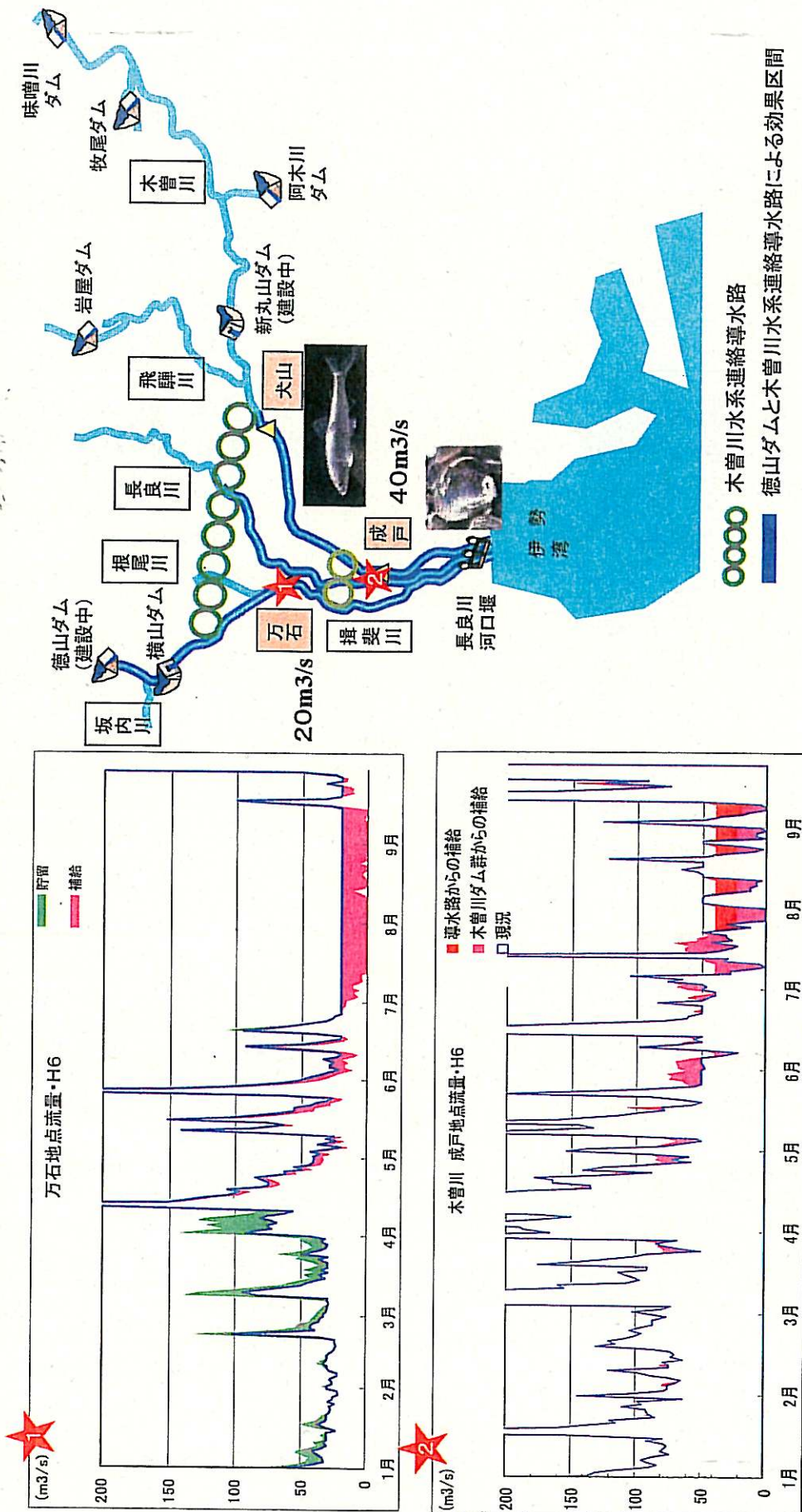
	上 流 案	下 流 案
緊急水の補給 (河川環境の改善効果)	改善区間 木曽川 約60km 長良川 約60km 根尾川 約10km ・アユ等の産卵区域(木曽、長良川の中流域) ・ヤマトシジミ等の生息区域(木曽、長良川の下流域) ・長良川の鵜飼 ・河川環境楽園等からの河川景観 異常渇水時：節水緩和(広域的)	改善区間 木曽川 約30km 長良川 約30km ・ヤマトシジミ等の生息区域(木曽、長良川の下流域) 異常渇水時：節水緩和(限定的)
新規利水補給	取水可能地点：犬山頭首工直上流 木曽川大堰直上流 水供給範囲：広い 緊急時の効果：水源の多様化 節水緩和	取水可能地点：木曽川大堰直上流 水供給範囲：限定的 緊急時の効果：限定的
経済性	延長：約44km 事業費：約900億円 ライフサイクルコスト：約704億円(現在価値) 管理費：約1.4億円(年平均) ・自然流下のためポンプ及びこれの運転経費が不要	延長：約8km 事業費：約960億円 ライフサイクルコスト：約805億円(現在価値) 管理費：約5.3億円(年平均) ・ポンプ設備の更新及び運転経費が必要 ・取水堰が必要
その他		・取水堰の新設にあたっての調整に時間を要する。

図位置トール導水



徳山ダム・木曽川水系連絡導水路の役割

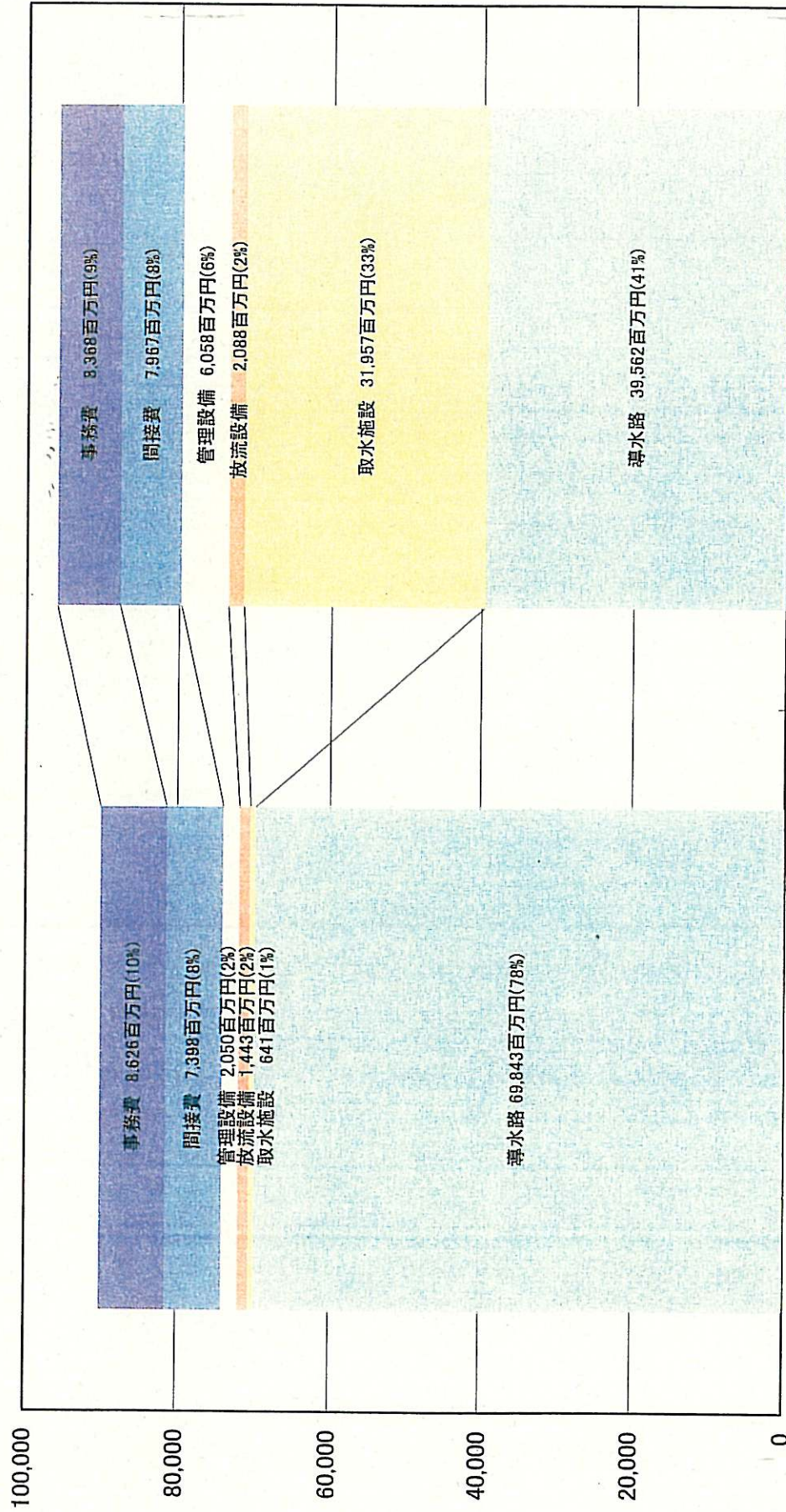
最低限万石20m³/s、成戸40m³/sの流量を確保します



導水路事業費比較

木曾川水系連絡導水路 事業費比較

(百万円)



上流案 事業費 90,000百万円

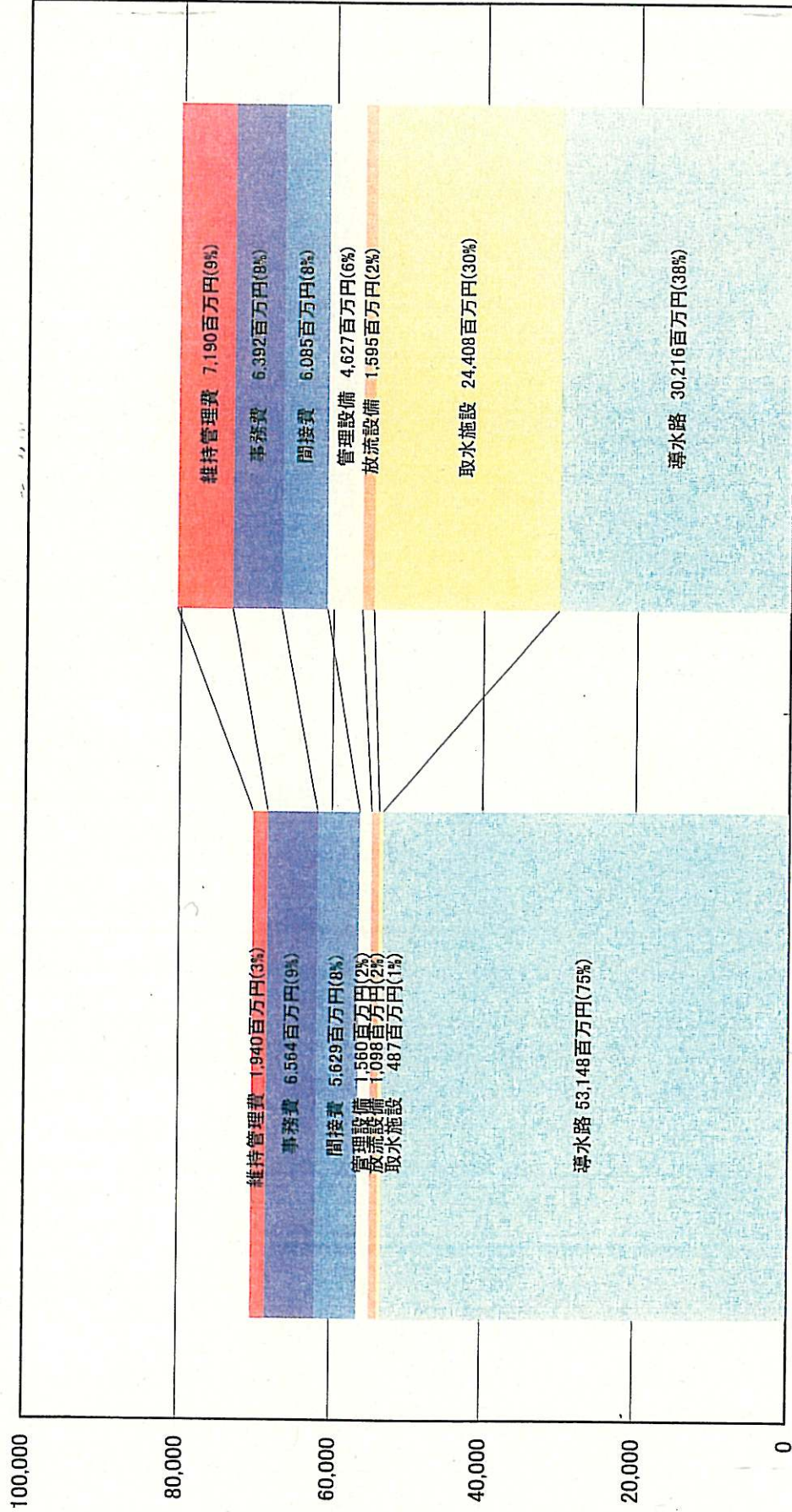
下流直通案 事業費 96,000百万円

()内は、全体事業費に対する割合を記入

ライフサイクルコスト比較

木曽川水系連絡導水路 LCC比較

(百万円)



上流案 LCC 70,427百万円
()内は、全体LCCに対する割合を記入。

下流案 LCC 80,512百万円
※残存価値は、建設費(現在価値)より差引いている。

地元説明状況について

現地調査における地元説明に用いた資料	・ ・ ・ ・ ・ 1
地元説明の実施状況	・ ・ ・ ・ ・ 10

徳山ダムの水を導水する「木曽川水系連絡導水路」

事業の目的

「木曽川水系連絡導水路」には、次の2つの目的があります。

- ・ 異常渇水時の緊急水補給による河川環境の改善等
- ・ 新規利水の補給

異常渇水時の緊急水補給による河川環境の改善等

木曽川水系の異常渇水時に緊急水を補給するために、徳山ダムに新たに「渇水対策容量」が確保されます。

「木曽川水系連絡導水路」は、この緊急水を、揖斐川だけでなく、木曽川・長良川に対して導水することにより、異常渇水時における河川環境の改善等を行うことを目的としています。

新規利水の補給

岐阜県、愛知県、名古屋市に都市用水を供給するために、徳山ダムに新たに「新規利水容量」が確保されます。

「木曽川水系連絡導水路」は、愛知県及び名古屋市の都市用水を、木曽川で取水できるように導水することを目的としています。



渇水により干上がった河川
平成12年9月 大野町・神戸町



給水車から給水を受ける住民
平成6年7月 常滑市

徳山ダムの水を導水する「木曽川水系連絡導水路」

事業の内容

ルート、導水路断面などは、今後、関係県市などとの調整や地質調査などを経て決定することとしています。

現時点では、下記の2つのルート案(上流ルート案、下流ルート案)が考えられます。

位置図



上流ルート案の特徴

緊急水の補給

緊急水の補給導水路を木曽川の上流部に接続する案であり、緊急水により河川環境が改善される河川延長が長い。

新規利水補給

犬山頭首工付近から下流で新規利水の取水が可能となる。

下流ルート案の特徴

緊急水の補給

導水路延長を短くするため導水路を木曽川の下流部に接続する案であり、緊急水により河川環境等が改善される河川延長が短くなる。

新規利水補給

木曽川大堰付近でのみ新規利水の取水が可能。

H18.7.19

地域の皆様へ

「木曽川水系連絡導水路」候補ルート沿線の現地調査（お知らせ）

地域の皆様におかれましては、日頃より国土交通省木曽川上流河川事務所の実施する河川行政に対しご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、この度「木曽川水系連絡導水路」の候補ルートの上流ルート沿線の現地調査を実施しますので、皆様のご理解とご協力賜りますようお願い申し上げます。

1. 調査目的

「木曽川水系連絡導水路」候補ルートの上流ルートにおける施設構造物の予備設計及び事業実施に伴う自然環境への影響検討に必要な基礎資料として下記の調査を実施します。

2. 調査内容

1) 生物環境調査

候補ルート沿線周辺における動植物（哺乳類、鳥類、爬虫類・両生類、魚類、陸上昆虫類、底生動物、植物）調査を行い実態を調査します。

2) 水環境調査

候補ルート沿線周辺の沢、河川等の水位、流量、及び水質調査等を実施します。

3. 調査予定期間

1) 生物環境調査

H18年9月からH19年8月頃まで

哺乳類 : 夏、秋、冬、春

鳥類 : 夏、秋、冬、春

陸上昆虫類 : 夏、秋、春

爬虫類・両生類 : 夏、秋、冬、早春、春

魚類 : 春～秋にかけて2回

底生動物 : 夏、冬、早春

植 物 : 夏、秋、冬、早春、春

2) 水環境調査

H18年9月からH19年8月頃まで

4. 調査場所 (別紙参照)

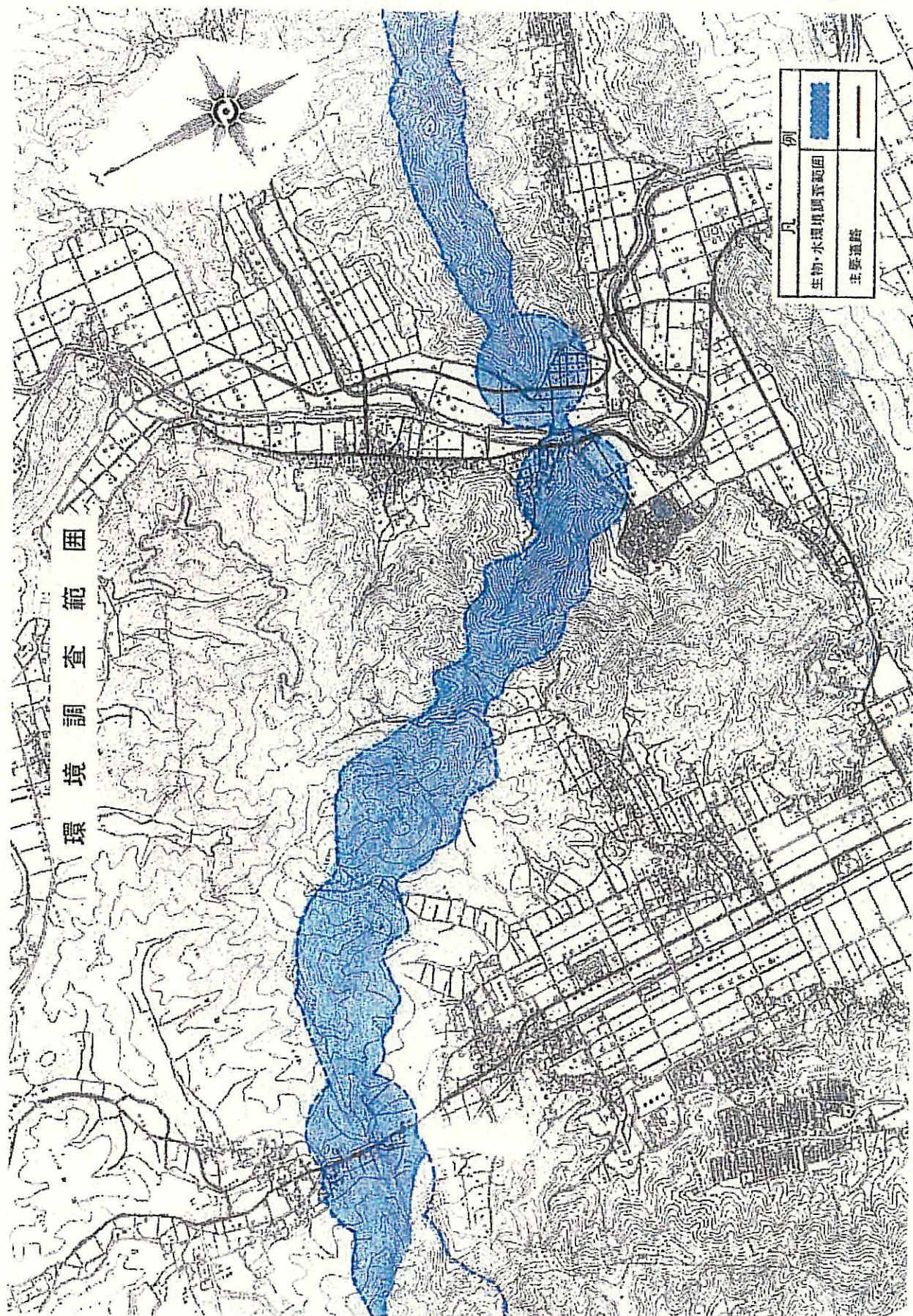
5. 問い合わせ先

国土交通省 木曽川上流河川事務所 河川環境課

TEL (058) 251-1378

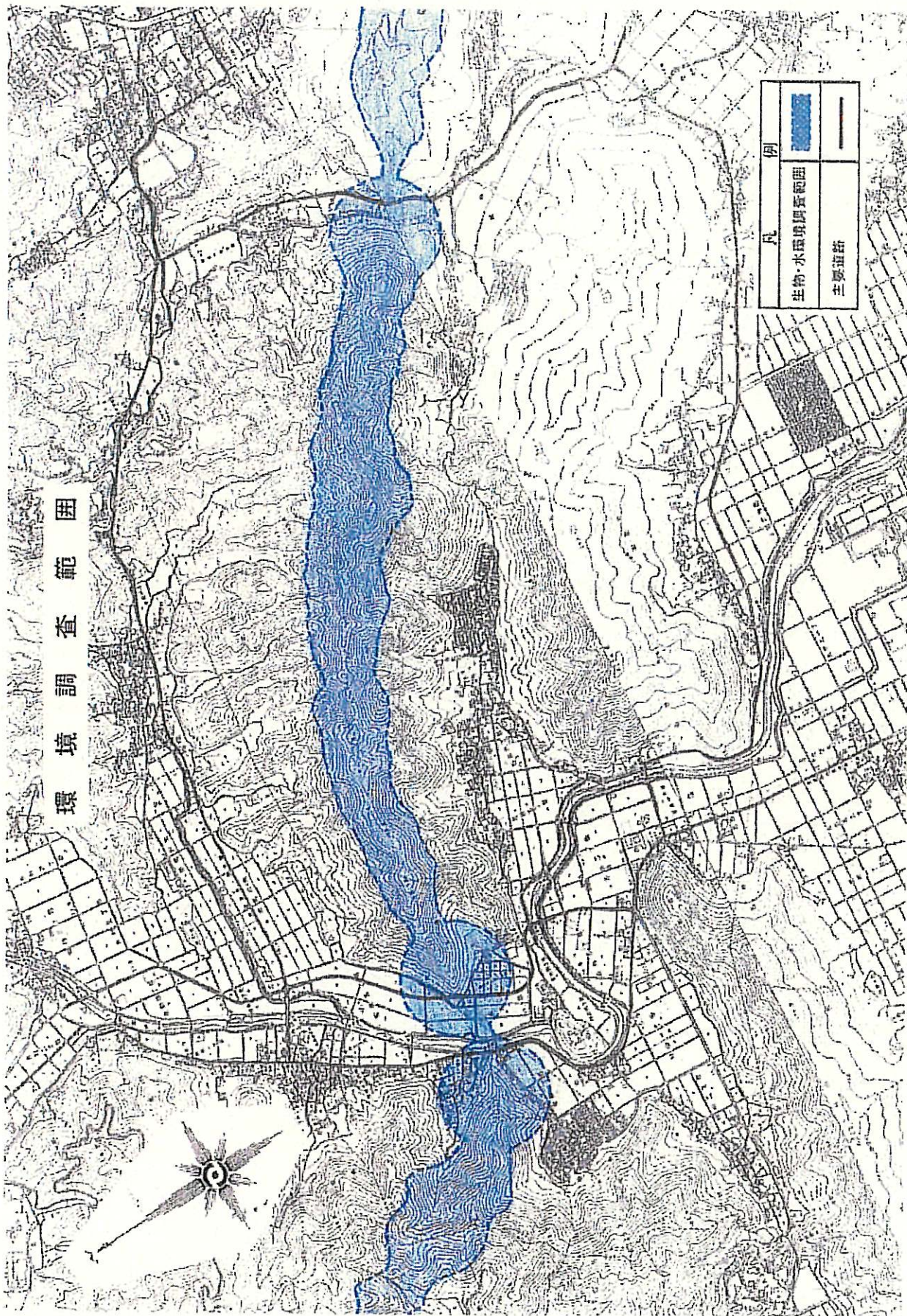
岐阜市役所 基盤整備部河川室

TEL (058) 265-4141

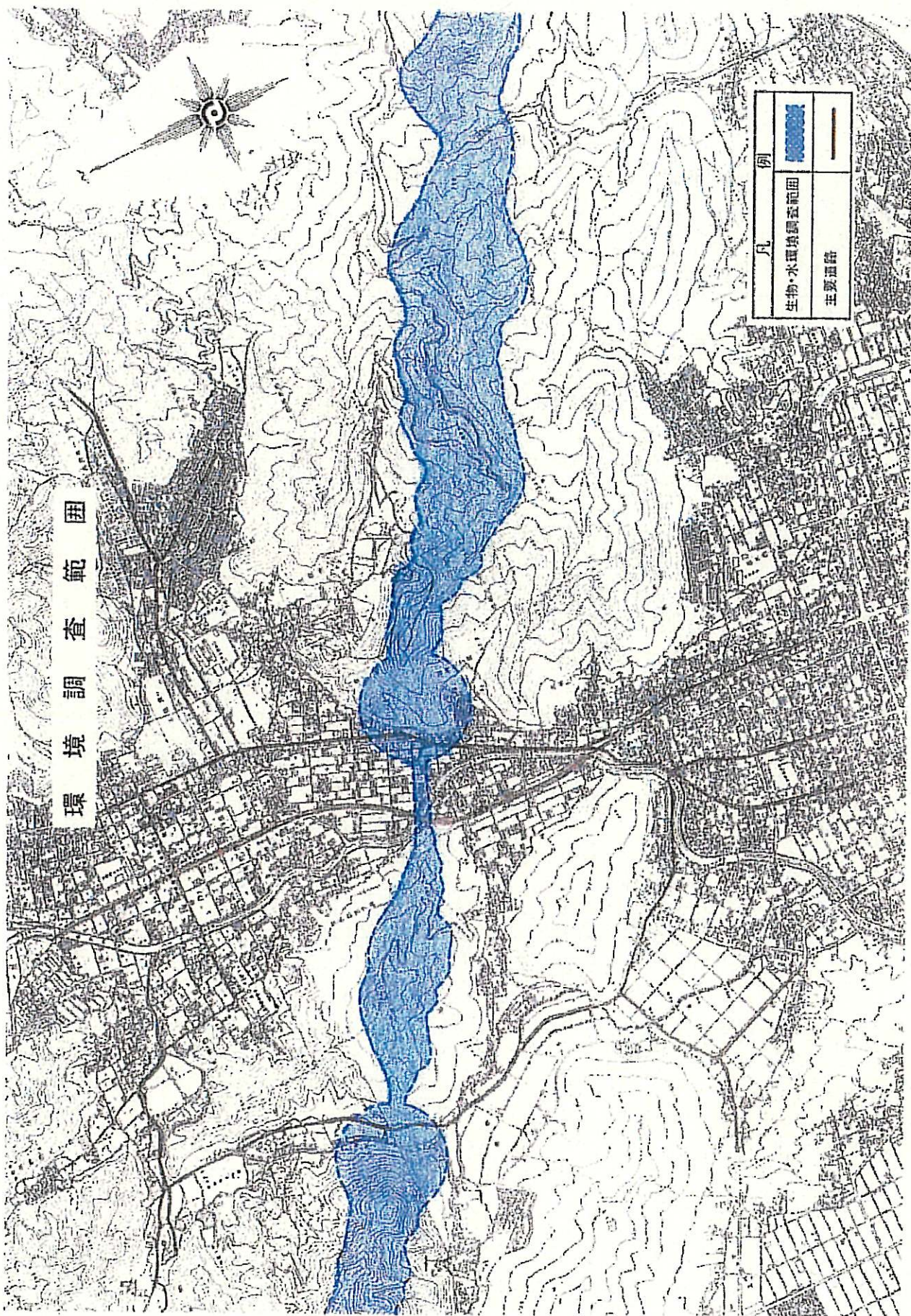


環境調査範囲

凡	例
生物・水環境調査範囲	
道路線	

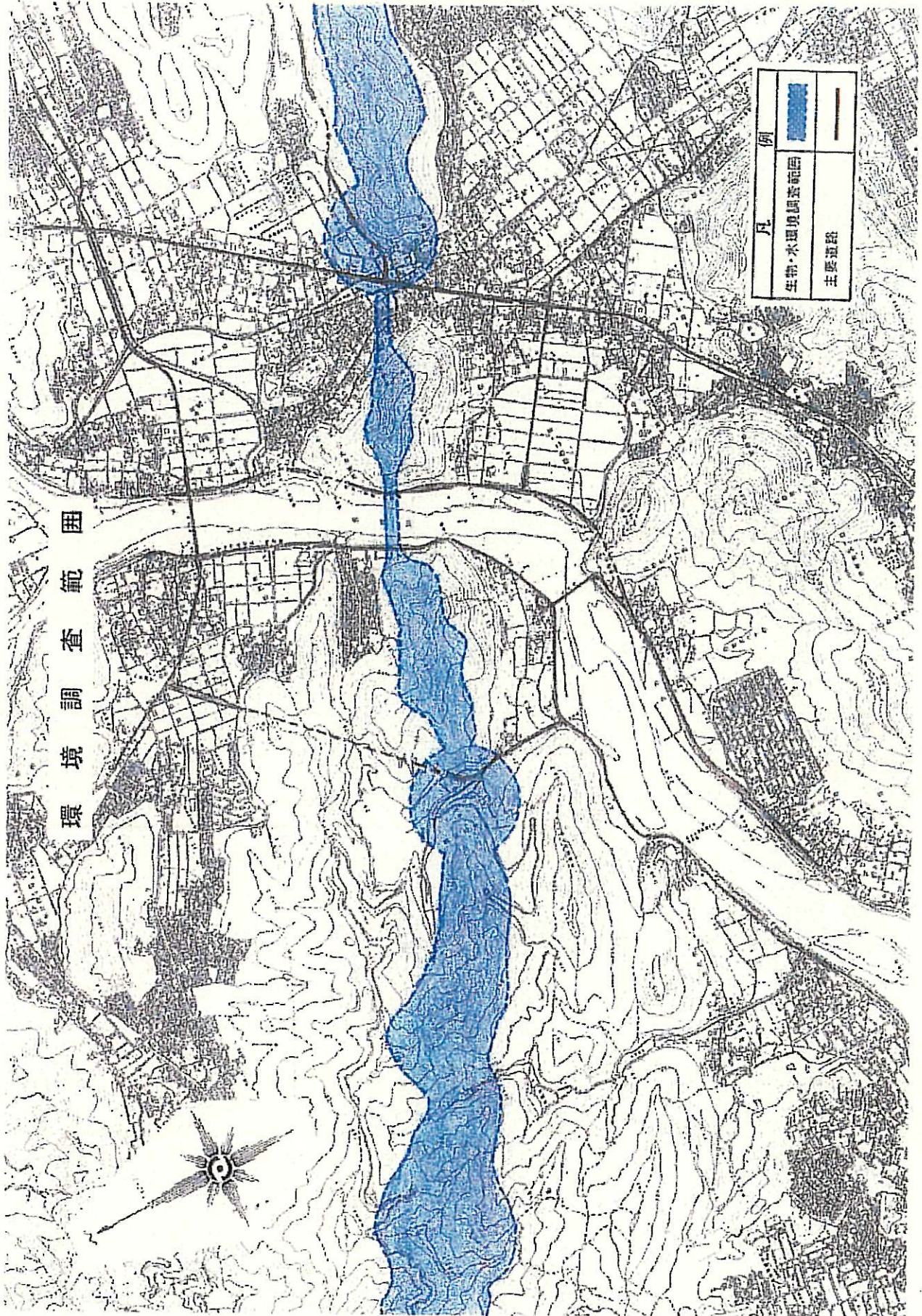


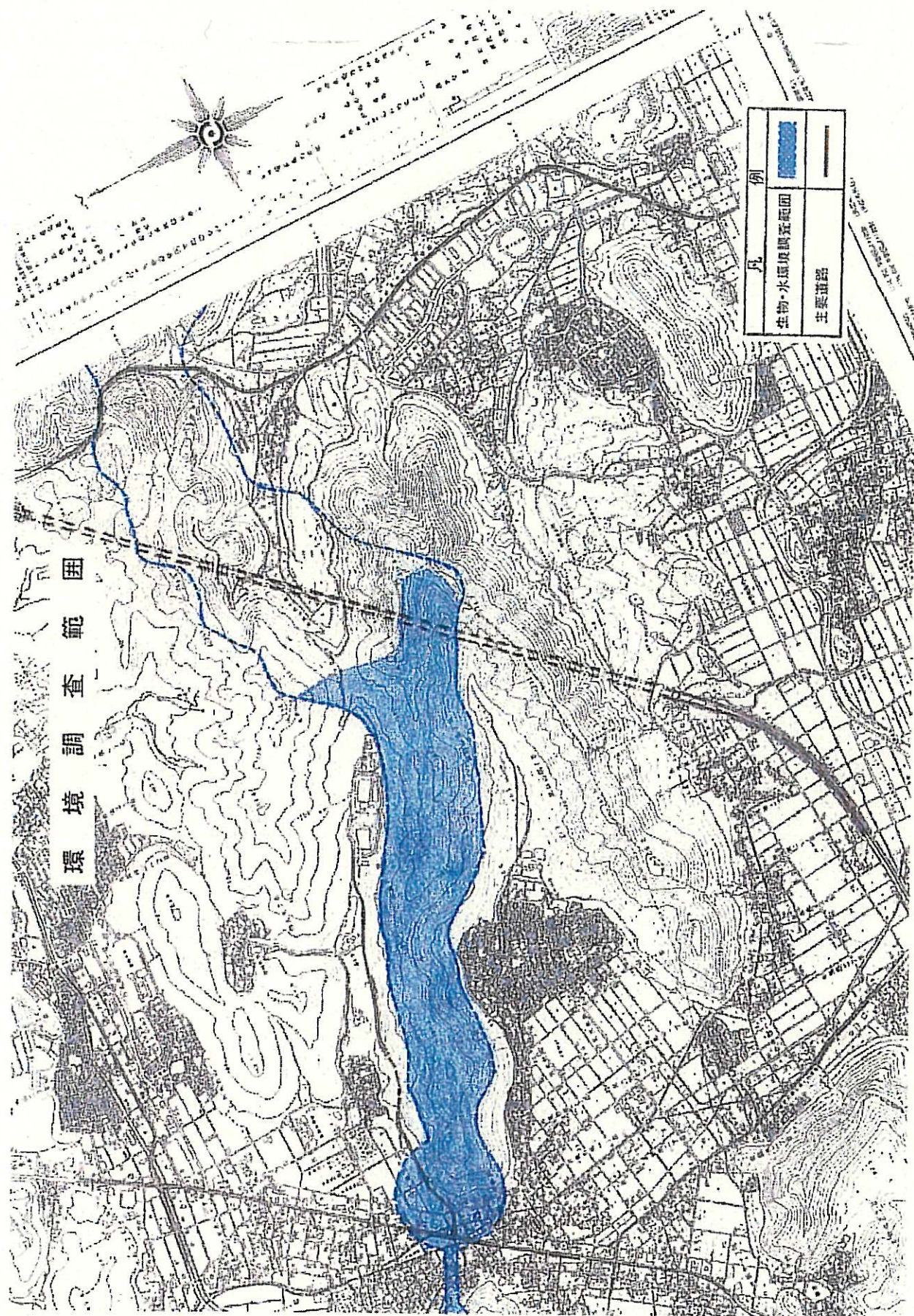
環境調查範圍圖



環境調査範囲

環境調查範圍圖





木曽川水系連絡導水路実施計画調査の説明状況について

- 5月16日(火) 岐阜県、県土木事務所、関係市町との調整会議(木曽川水系連絡導水路情報連絡会議)を開催し、H18調査計画を説明した。
- 6月中旬から該当地権者を調査。同時に市町の担当者と地元説明の方法について調整し以下のとおりとした。
 - ・ 環境調査は土地の改変が伴わないので、調査範囲内の[]等へ説明(地区内の住民へは案内文の回覧等で対応)のみとした。
ただし、[]説明時に住民説明会開催等要望された場合はその都度対応する。
 - ・ 地質調査についても調査箇所の[]へ説明し、その後地権者へ説明し承諾書を得ることとした。
 - ・ 説明資料は事業説明、地質調査、環境調査について各A4 1枚裏表程度とする。
 - ・ 市町には調査内容の問い合わせある場合を想定し、調査内容の分かる資料を配付する。
- 該当[](環境調査範囲内)は以下のとおり。

岐阜市	：	[]	28名
各務原市	：	[]	17名
関市	：	[]	2名
本巣市	：	[]	7名
坂祝町	：	[]	3名
揖斐川町	：	[]	22名
大野町	：	[]	4名

【計83名】

- ・ 地質調査の該当地権者は、各務原市、岐阜市、坂祝町において連絡先、間違い、漏れ等の精査中。揖斐川町、本巣市は未完了。関市、大野町は地質調査実施箇所なし。

● []説明の実施状況

- ・ 環境調査地元説明状況は以下のとおり。

揖斐川町	：	完了	8月7日(月)、10日(木)に実施済み。
大野町	：	完了	7月20日(木)実施済み。地元へは案内ビラの回覧。
本巣市	：	完了	7月28日(金)～8月3日(木)で6 []に対し個別説明済み。
岐阜市	：	一部未完了	[]会の [](8名)に対し7月19日(水)、7月27日(木)に説明行い、7名の []については []への説明必要なく、回覧にて周知することで了解済み。残りの1連合自治会については地元地権者の了解を得て欲しいとの要望があり、現在、地権者(約28人)に調査の説明中。
関市	：	完了	7月28日(金)と8月1日(火)に []及び []委員へ説済み。
各務原市	：	完了	7月24日(月)～7月31日(月)で地元 []等(17名)に説明済み。
坂祝町	：	完了	7月26日(水)自治会 []2名、 []へ説明済み。

- ・ 地質調査については、地権者調査が完了した地区から []説明、地権者説明を実施するとともに、8月後半までに契約の準備を整え契約手続きを開始する。

資料－ 3

「木曽川水系に係る連絡調整会議」議事メモ	・ ・ 1
木曽川水系連絡導水路事業に関する事業計画書を上 流ルート案で策定することについて	・ ・ ・ ・ ・ 2
第 6 回検討会議事要旨（素案）	・ ・ ・ ・ ・ 3

未定稿

「木曾川水系に係る連絡調整会議」議事メモ

開催日	平成 18 年 8 月 7 日		
出席者	中部地方整備局河川部	部長	細見寛
		河川調査官	浅野和広
	岐阜県県土整備部	部長	奥田邦夫
	愛知県水資源部	部長（代理）	水資源監 早川吉夫
	愛知県建設部	部長（代理）	技監 横山敦
	愛知県企業庁水道部	部長（代理）	水道計画課長 田口晶一
	三重県政策部	部長（代理）	資源政策監 松井勝幸
	三重県県土整備部	部長（代理）	河川室長 花谷邦生
	名古屋市上下水道局技術本部	本部長	遠山周二

- ① 上流案で事業計画書（案）を作成する。
- ② 地元へ提供する情報の内容については、整備局と三県一市が情報を共有する。特にルートの手示にあたっては 4 例目にならないように注意する。
- ③ 実施計画調査は地質調査や環境調査のみならず、例えば文化的な調査など幅広い視点で調査する。
- ④ 三県一市別の導水路の効果について、それぞれにわかりやすい資料を作成し三県一市に提供する。
- ⑤ 次回導水路検討会を H 1 9 概算要求の公表に合わせて開催する。

木曽川水系連絡導水路事業に関する事業計画書を上流ルート案で策定することについて

- ①揖斐川から木曽川に緊急水を導水するためのルートについては、既存の河川を利用する案等を含め、様々なルートを概略検討した結果、山岳トンネルを主体とする上流ルート案とシールドトンネルを主体とする下流ルート案に集約した。
- ②平成 17 年 10 月に開催した「徳山ダムに係る導水路検討会（整備局河川調査官と 3 県 1 市の課長クラスで構成）」で「上流ルートで検討を進める」ことが確認されたことから、河川総合開発事業調査費 1 億円（平成 17 年度）をもって上流ルート案の現地調査（地表踏査及び一部ボーリング調査）に着手した。
- ③一方下流ルート案については既存の調査データがあることから、それを活用して比較対象としての検討を行ってきた。
- ④平成 18 年度には実施計画調査に新規採択され、事業計画策定に向けた調査・設計を実施することとなった。そこで 17 年度成果を踏まえ上流ルートと下流ルートの効果及び経済性を比較したところ、上流ルート案が優位と認められ関係機関もこれを確認したことから上流ルート案にて実施計画調査を進めてこのルート案における事業計画（案）を作成し、事業内容を検証することとした。

<参考>現在の上流ルート案の考え方

- ① 呑口位置については、新たな河川横断構造物が不要で、有効落差がなるべく大きくとれる場所とする。
- ② 木曽川への吐口位置については、犬山地点における主な取水口の上流側とする。
- ③ 導水路については、断層を避け、途中で横過する谷の幅が狭く、なるべく岩質が変化しない山地部を短距離で通過するルートとする。

徳山ダムに係る導水路検討会（第6回） 議事要旨（素案）

日 時：平成18年8月30日（水）

場 所：（独）水資源機構中部支社 4階会議室

出席者：国土交通省中部地方整備局河川部長（座長）

岐阜県県土整備部長（代理：

愛知県地域振興部長（代理：

愛知県建設部長（代理：

愛知県企業庁水道部長

三重県政策部長（代理：

三重県県土整備部長（代理：

名古屋市上水道局技術本部長

配付資料：

次第

資料－1 上下流案の比較について

確認事項

1. 事業計画の作成にむけて

現時点において経済性と効果を総合的に検討した結果、上流ルート案が優位と確認されたので、上流ルート案で事業計画（案）を作成することとした。

この議事要旨は第6回検討会終了後の記者会見時に配布するものです。